

グラフで見る少年犯罪

「日本が危ない」

レポート「教育の現状 2006」おまけ

2006.11.4a

札幌たのしい授業研究サークル用レポート

仮説実験授業研究会・北海道・丸山秀一

先日の管内高等学校教育相談研究会で函館大学の講師が「日本が危ない」とする講演を行いました。「なぜ危ないのか」というと、「現在日本には、100 万人の引きこもり、85 万人のニート、400 万人のフリーター、20 万人の不登校、16 万人の少年犯罪者がいる。これらを合計すると 621 万人となり、北海道の人口よりも多い」ということだそうです。

この合計にどういう意味があるのかは分かりませんが、少年犯罪についてみていきましょう。

【問題】

次のページのグラフ（中一夫、『たのしい授業』2000.10 仮説社）は 1998 年までの少年による殺人の検挙者数で、1973 年以降はほぼ 100 件以下で一定しています。では 1999 年以降はどうなっているでしょうか。また、少年人口での割合で見るとどうでしょう。

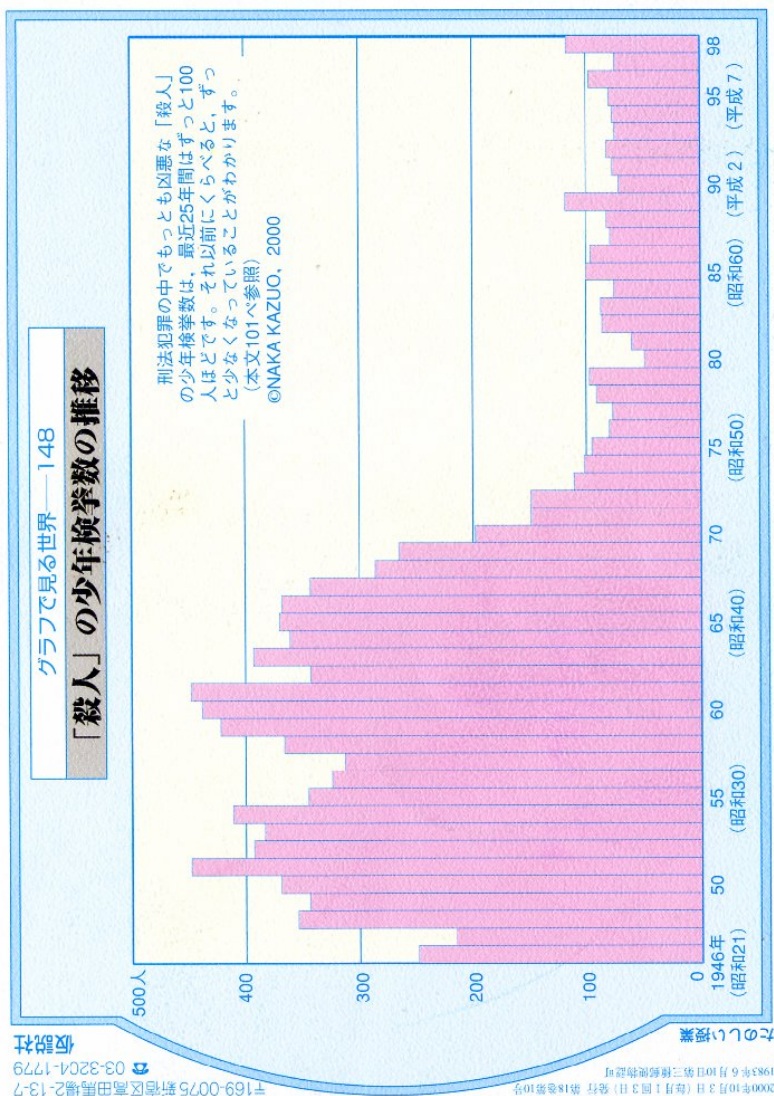
予想

ア 一定のまま変わらない

イ 増加してきている

ウ 減少してきている

エ なんともいえない



■少年による殺人

最新のデータでグラフ「少年による殺人事件検挙者数と率の推移」（法務省法務総合研究所『犯罪白書平成 17 年度版』より作成）を描いてみると、少年による殺人事件は、検挙者数も割合も 30 年以上にわたってずっと低い水準のままであることがわかります。

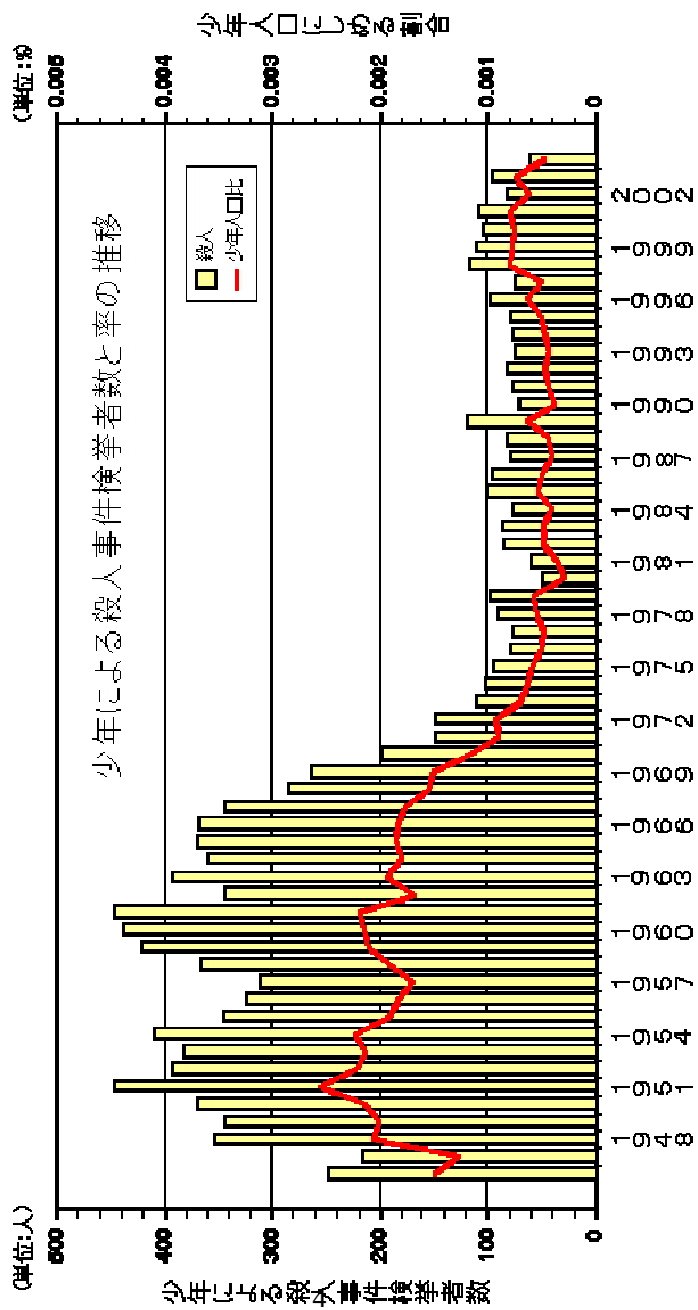
それなら、最近マスコミなどで「少年犯罪の増加」が問題とされるのはどうしてなのでしょう。「殺人は増えていないが、ほかの犯罪が増えている」ということなのかも知れません。

【問題】

「殺人」だけでなく、刑法犯全体の検挙数で見ると、少年犯罪は増えているのでしょうか。少年による「殺人」では、40～60 年前がとて多く、最近は少なくなっているのですが、それは「少年による刑法犯全体の検挙者数」で見ても同じ傾向なのでしょうか。少年人口に対する比率で予想してみてください。

予想

- ア 「殺人」と同じ傾向で最近は少ない
- イ 最近の方が多い
- ウ だいたいいつも一定



■増加する少年犯罪

少年による刑法犯の検挙者数は 40～60 年前よりも多くなっています。この 18 年は検挙者数においては横ばいですが、少年人口が減っているため、割合では上昇傾向にあるのです。「少年犯罪が増えている」という報道も嘘とは言えないわけです。

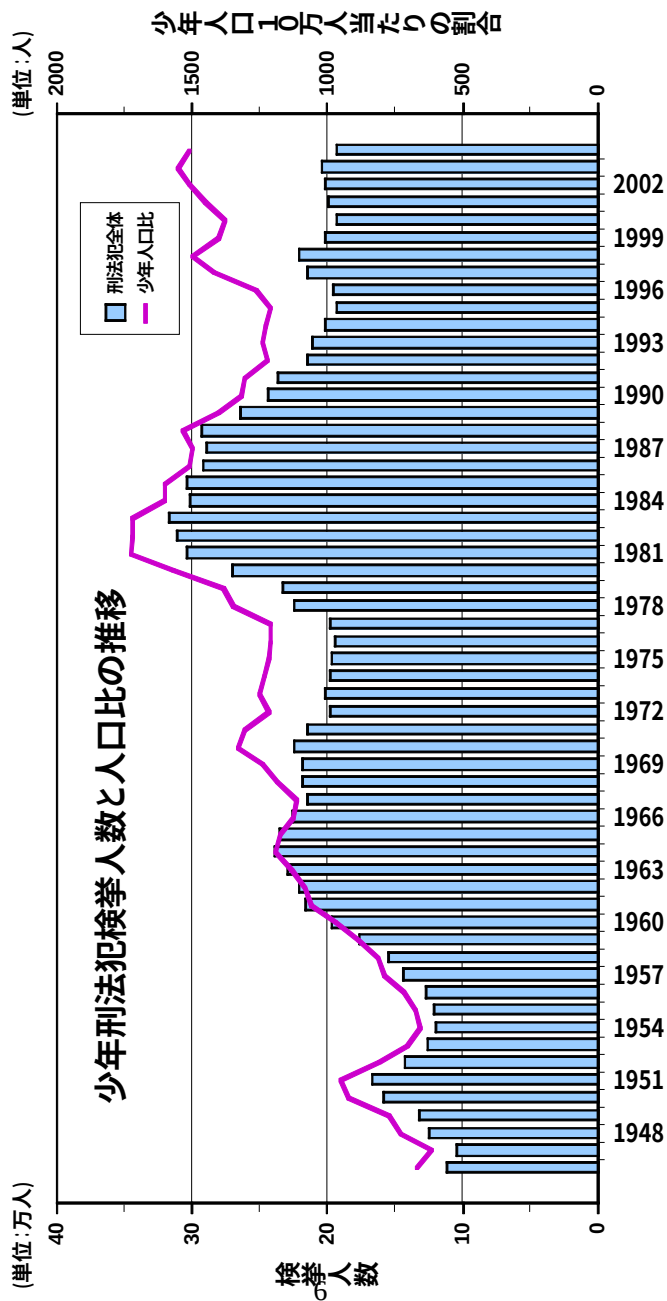
しかし、「殺人」は減ってきているわけですから、いったいどんな犯罪が増加しているのでしょうか。

【問題】

それを調べる前に、もう少しこのグラフを見ていきましょう。グラフでは 1980 年代がピークになっています。『たのしい授業』の記事では、「1980 年代は校内暴力が多い時期だった」との分析を紹介していますが、「校内暴力」の発生件数と、少年犯罪のグラフは似たような傾向を示しているのでしょうか。

予想

- ア 似たような傾向
- イ 全く似ていない
- ウ なんともいえない



■校内暴力との関係

「校内暴力」の統計は 1982 年度のものからですのでそれに合わせて「少年犯罪」のグラフも書き換えて比較してみると、あまり似ていません。ただ 2002 年度に「ゆとり教育」の成果のためか、「校内暴力」の比率が減少しますが、「少年犯罪」のグラフでもそこは似たような傾向が見られるのは興味深いところです。

もっとも「少年犯罪」と言っても、いろいろな犯罪があります。「少年犯罪」のうち「暴力的な犯罪」だけとって見れば、「校内暴力」のグラフと関連しているのかも知れません。そこで「少年犯罪」の中身についてみていきましょう。

【問題】

少年刑法犯の主な犯罪には、殺人、強盗、傷害、暴行、脅迫、恐喝、凶器準備集合、窃盗、詐欺、横領、盗品譲り受け、強制わいせつ、放火、住居侵入、器物損壊、危険運転致死、交通関係業務上過失などがあります。このうち、検挙数の多い犯罪 3 つで全体の 87%をしめますが、その三つはなんだと思いますか。

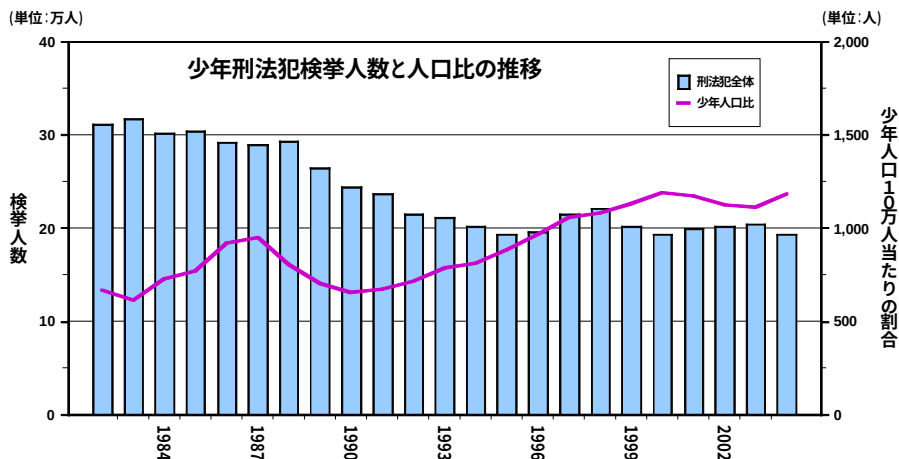
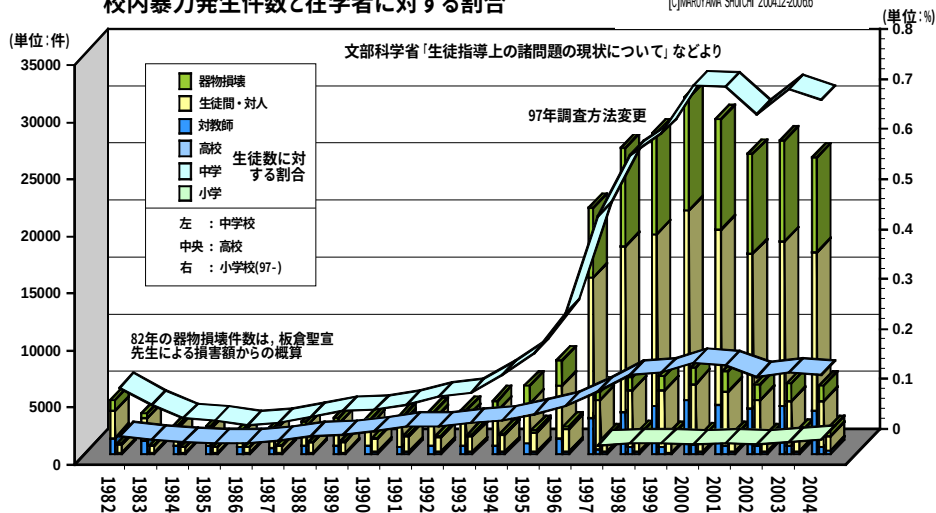
予想

- 1 番多い犯罪は ()
- 2 番目に多い犯罪は ()
- 3 番目に多い犯罪は ()

凶悪化しているのでしょうか。

校内暴力発生件数と在学者に対する割合

[C]MARUYAMA SHUICHI 2004.12-20066



■少年犯罪の中身

少年犯罪の内、約半数が「窃盗」です。窃盗と言っても、その半数が「万引き」で、「自転車、オートバイ盗」と合わせると、窃盗全体の 83%になります。1980 年代の少年犯罪全体の件数を引き上げたのが、この「窃盗」による犯罪です。おそらくコンビニなど「万引きしやすい環境」が増えたためでしょう。1974 年に東京にセブン・イレブン 1 号店が開店、それから 7 年後の 1981 年度より現在に至るまで小売業界での利益額 1 位がコンビニによるものとなっているのです。コンビニは開店したときから、「万引きを誘発する」ということが問題となっていたのです。

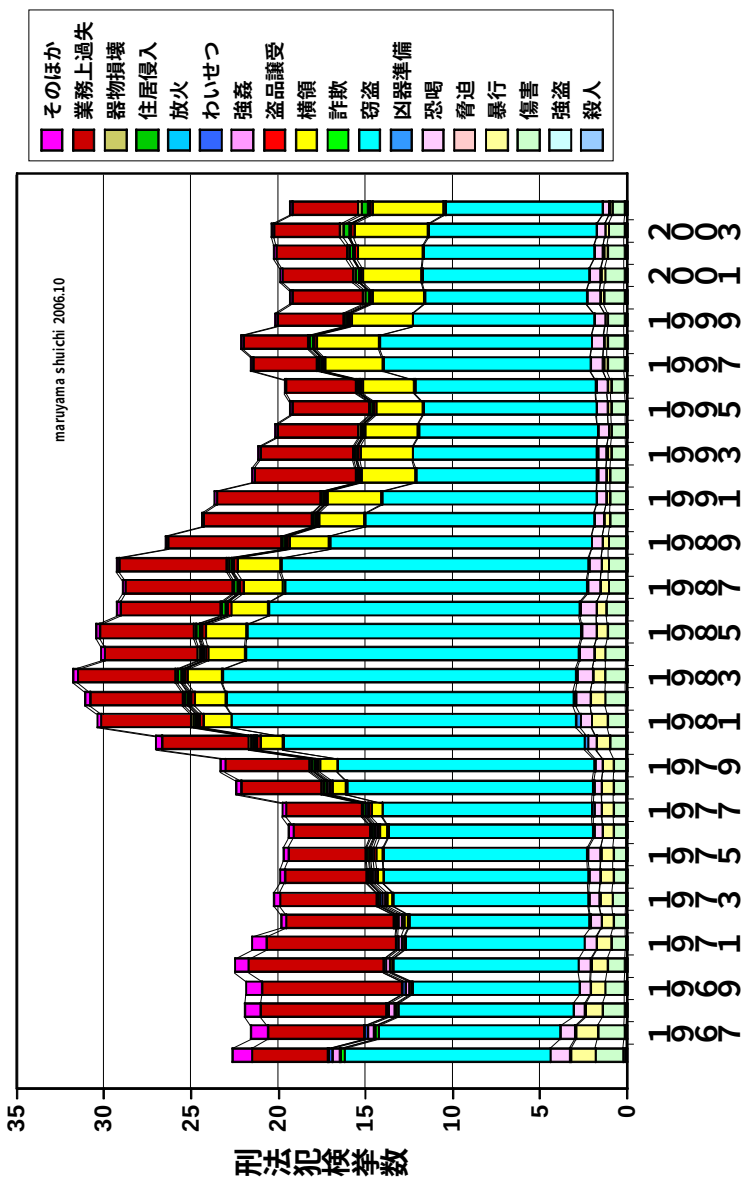
次に多いのは、「横領」と「交通関係業務上過失」で、それぞれ全体の約 5 分の 1 です。「交通関係業務上過失」とは、いわゆる「交通事故」のことで、毎年ほぼ同じぐらいの件数があります。

「横領」はだんだんと増えてきている少年犯罪ですが、「横領」の 98%以上は「遺失物等横領」で、「放置自転車などを自分のために使ったりした」というものです。これも「最近は放置自転車が増えてきた」ということでもあるということがわかります。また、「アルバイト先で自分が扱っている物品やお金を自分のものにした」というのも「横領」です。

これでは「少年犯罪の凶悪化」とは、言えそうにありません。では、凶悪犯罪の方はどうなっているのでしょうか。

少年刑法犯の罪名別検挙人員の推移

(単位:万件)



【問題】

『犯罪白書』では「殺人」と「強盗」だけを「凶悪犯罪」としています。ここでは、それに加えて、「放火」と「強姦」も「凶悪犯罪」として見ていきましょう。

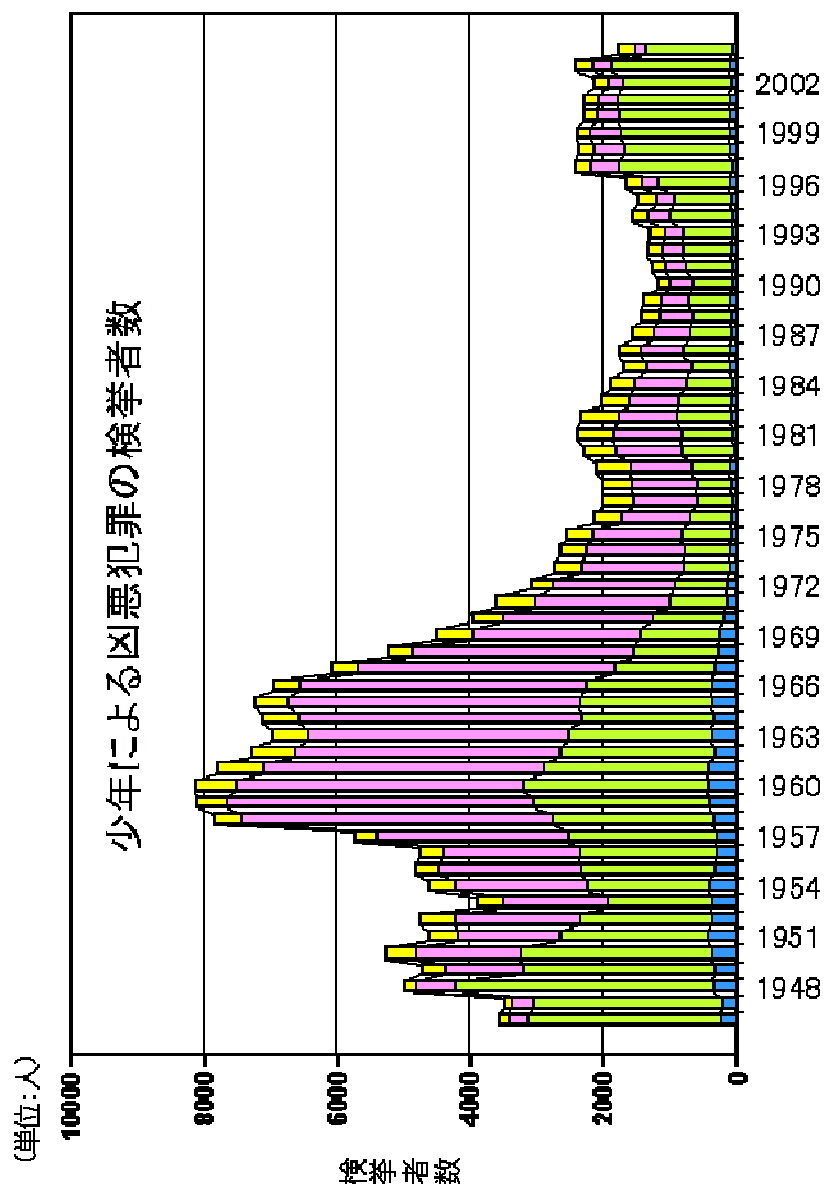
先ほどのグラフを「凶悪犯罪」だけにしぼってグラフを書き直すと、次のようになります。青色で描かれたグラフは「殺人」の件数で最近減少しているのが分かります。ではピンク色の最近著しく減少した凶悪犯罪と、緑色の最近割合が増えている凶悪犯罪はそれぞれなんだと思いますか。

予想 ピンク色（ ） 緑色（ ）

ア 強盗

イ 放火

ウ 強姦



■凶悪犯罪の中身

ピンク色で表されたグラフは「強姦」の検挙者数で、緑色で表されているのは「強盗」です。最近の少年による凶悪犯罪は 50 年前と比べて約 4 分の 1 になっているわけですが、その多くは「強姦」が減ったことによります。これは「婚前交渉」を禁止してきた社会的規範が変化してきたことと無関係ではないでしょう。

最近の少年による凶悪犯罪のほとんどを「強盗」がしめますが、その大半は「オヤジ狩り」などのような「路上強盗」です。

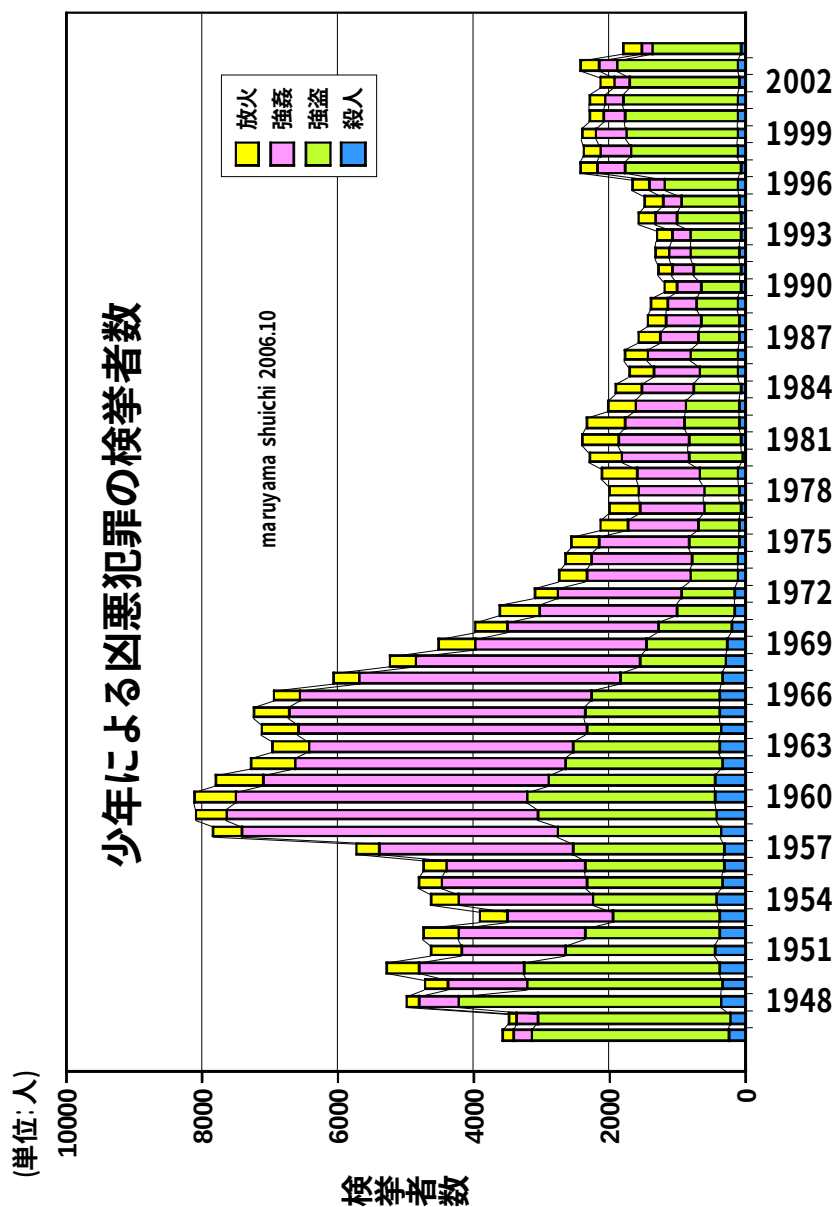
【問題】

では、「校内暴力」と関係があるかも知れない少年犯罪の内の「恐喝」「脅迫」「暴行」「傷害」について見ていきましょう。

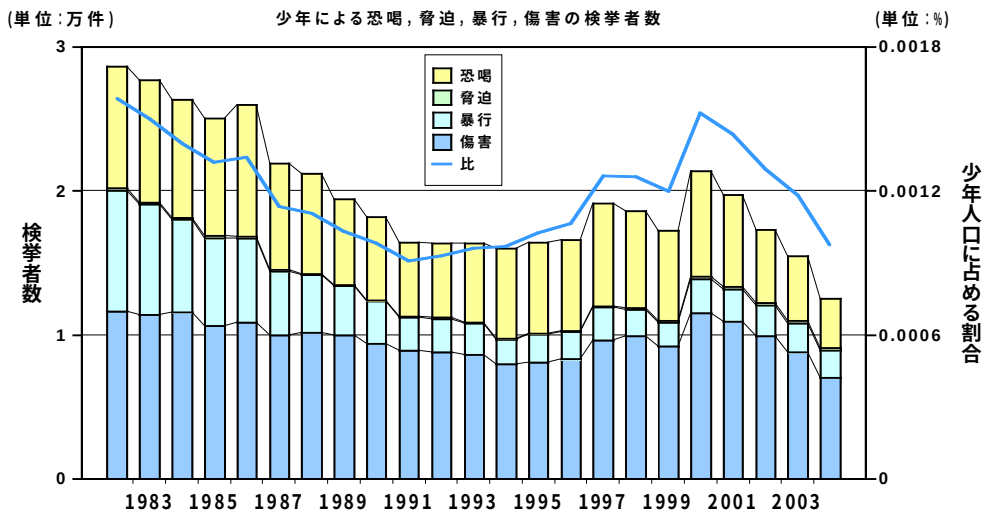
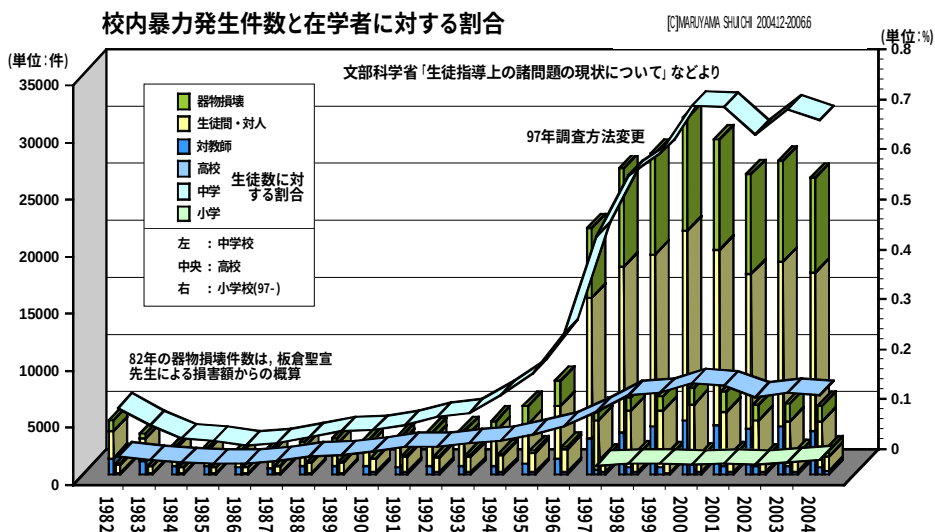
これらの「少年犯罪」と「校内暴力」は、件数や割合のグラフでみると、同じ傾向があると思いますか。

予想

- ア 同じ傾向がある
- イ 同じ傾向はない
- ウ なんともいえない



■校内暴力と少年犯罪



「恐喝」「脅迫」「暴行」「傷害」で見ても、「校内暴力」とは関係があるようには見えません。特にこういった少年犯罪が低下傾向にあるのに対して、校内暴力は上昇傾向になってきています。

【問題】

日本の少年犯罪が大きく報道されるのは、諸外国と比較して日本の少年犯罪の件数が多いためかも知れません。『犯罪白書』には、米国、英国、ドイツ、フランスのデータが載っていますが、それらの国と少年の人口比で比較すると、日本は少年犯罪が多いと思いますか。

予想

- ア ダントツに多い
- イ 多い方
- ウ 少ない方
- エ ダントツに少ない

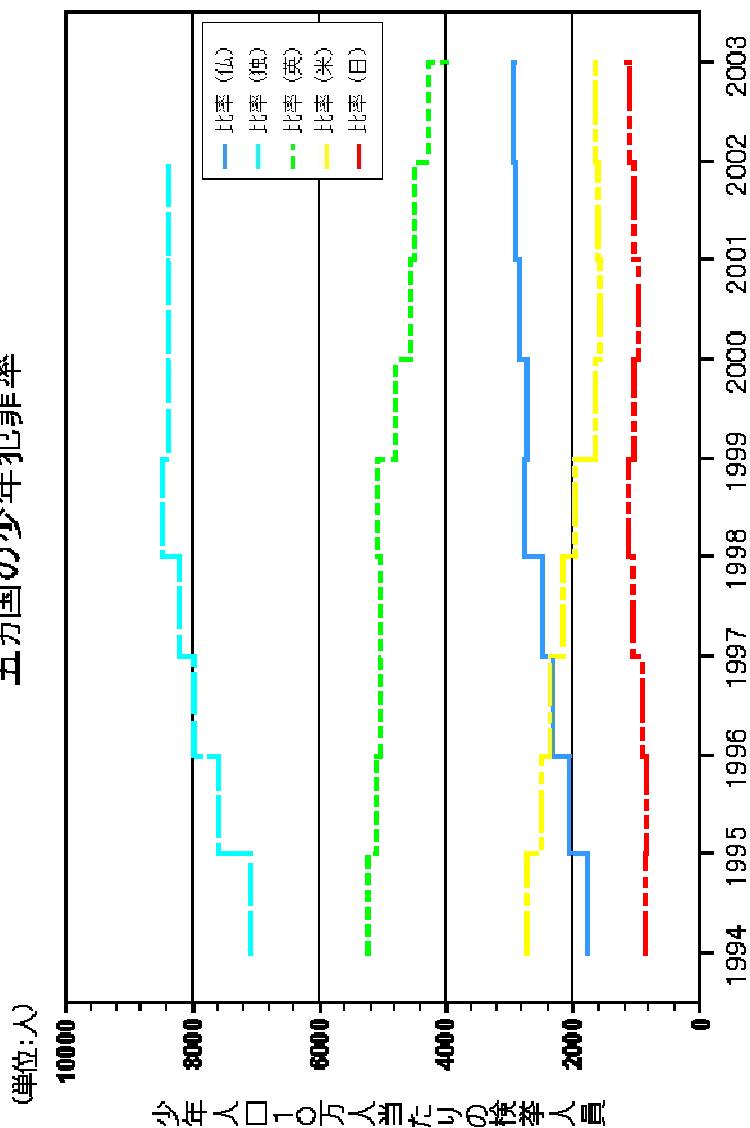
■諸外国との比較

五ヵ国の中では、日本がだいたい一定で、常に最低の「犯罪率」となっています。検挙率も日本が一番ですから、それを考えると、日本の少年犯罪は、さらに少ないことになります。

五ヵ国の中では、ドイツが一番高く、フランスは増加を続けてきているのに対して、米英は減少してきています。「それぞれの国の少年犯罪の内訳のグラフ」（別紙）も見て、日本と比較してみるのも良いでしょう。

注: 「五ヵ国の主要な犯罪・殺人・強盗の少年・青年別検挙人員人口比の推移」、法務省『犯罪白書』平成 17 年版よりグラフを作成しましたが、諸外国との統計に合わせるため、日本のデータはこれまでのグラフ等と一致しません。「人口比」は「少年人口 10 万人当たり」の人数です。

五カ国の少年犯罪率



■おわりに

こうやって少年犯罪について見てゆくとたしかに「日本は危ない」ようです。なぜなら、そういった「事実とは異なるただ危機感をあおるだけ」の宣伝が繰り返し広げられているからです。このレポートには「ニート」「不登校」などについては取り上げていませんが、それらは拙作の「学校教育の現状」をご覧ください。

「少年犯罪」については、中一夫さんが2000年10月の『たのしい授業』に、すばらしいレポートを書いてくださっています。その後は、毎年新しいデータの分を中さんのグラフに追加して使っていました。また「人口比で考えてみたい」とも思っていたのですが、なかなか新しいレポートが現れなかったので、『犯罪白書』を買って、グラフを書き直してみたわけです。

もともとこのレポートは拙作の「学校教育の現状」というものの一部だったのですが、今回分離して書き直してみました。「大人の犯罪はどうなのか」など、気になることもまだありますが、今回はここまでとします。研究のきっかけを与えてくださった中さんに感謝申し上げます。

丸山秀一 kasetu.maruyama@nifty.com

■典拠文献

- ・ 中一夫「少年犯罪は急増しているか」「グラフで見る世界 148」『たのしい授業』2000年10月号、仮説社
- ・ 法務省法務総合研究所『犯罪白書』平成17年度版
- ・ 丸山秀一「学校教育の現状 2006」2006.7